

令和4年度小学校及び中学校英語教育推進校連絡協議会(概要)

■目的

各英語教育推進校の外国語教育担当教員を対象に、小学校及び中学校英語指導力向上事業における取組内容や、民間テストの内容及び実施方法、児童生徒の英語力向上につながる説明・講義を行うことにより、児童生徒の英語力向上と教員の確かな英語指導力の育成に資する。

■日時

令和4年5月27日(金)13:20~16:20

1. 説明「小中学校英語教育推進における民間テストの実施について」

＜公益財団法人 日本英語検定協会 秋間 喬昭 氏、本間 充 氏＞

- ・ 令和4年度に小中学校英語教育推進校において実施する民間テストについて
小学校:英検 ESG / 中学校:英検 IBA
- ・ 令和3年度に実施した英検 ESG/英検 IBA の誤答例について

小学校	中学校
<p>①聞いた文字を適切に書くこと 音の聞き間違いや鏡文字、4線上の位置の書き間違い、ローマ字との混同が見られた。</p> <p>②自分のことについて質問に答えること 質問の内容にかかわらず主語が It's になっている回答が見られた。</p>	<p>①長文の概要や要点、必要な情報を把握すること 問いの選択肢の英文が、本文からパラフレーズ(言い換え)された場合に誤りが見られた。</p> <p>②構造のバリエーションを増やすこと、正しく表現すること 母語の影響による語順の誤りや所有格が適切に使えない状況、主語や動詞の欠如、理由として成立していない回答が見られた。</p>

2. オンライン講義「新学習指導要領を踏まえた授業づくり」

＜上智大学名誉教授/公益財団法人 日本英語検定協会 会長 吉田 研作 氏＞

- ・ Fish Bowl モデルから Open Seas モデルの英語へ移行することが必要。
- ・ 新学習指導要領では、多様な英語に対応できる、相手に通じる英語を学ぶことを大切にしている。
- ・ 知識・技能とは「英語使用の正確さ」であり、思考・判断・表現とは「コミュニケーションの目的や場面、状況に応じた表現内容の適切さ」である。正確さよりも、適切さが大切。
- ・ 指導を行う上での目標として、思考力、判断力、表現力等の育成のために Can-Do リスト形式の学習到達目標を踏まえて何ができればよいかを考え、そのために必要な言語活動を設定する。
- ・ パフォーマンステストを行う上でのポイント
 - ①一貫性のある文か/②論理的か・語彙は適切か/③文法が適切か(100%正確でなくても)
- ・ 未習の表現も「概念」を徐々にインプットし、インプットから気付きを促す。
言語活動 → 意味のある文脈への気付き → 知的理解
気付きを促すために、教師は「教える」ではなく「ヒントを与える」ことが大切。
Negotiation of meaning…簡単な表現から取り扱っていくこと。
- ・ 質疑応答
 - Q:教室は話す場ということだったが、語彙の少なさは家庭学習を充実させることでよいのか。
 - A:家庭学習の他、教室でコミュニケーションの中(文脈の中)でも語彙を指導することが大切。

3. 協議「各英語教育推進校における課題と改善策について」<義務教育課 指導主事 田代 和馬>

■小学校

- ・ 英文を少しずつ区切ったり、学習状況を確認したりしながら、目的や場面を明確にして聞き取らせる。
- ・ 児童が目的をもって取り組み、互いに伝え合う必要性があり、伝えることが楽しいと感じることができ
る言語活動を行う。
- ・ Small Talk 等で、既習事項を使ったやり取りを充実させる。 等

■中学校

- ・ インタビュー記事等を活用して、インタビューに答えている人が一番言いたいことに線を引いて英語で
要点をまとめる学習を行う。
- ・ 様々な音読方法を取り入れて、音読の充実を図る。
- ・ ペアやグループで話したことを書くなど、授業で書く機会を増やす。また、書いたことを生徒同士で添削
するなど、生徒に気付かせながら正しく表現できるようにする。 等